

発行—2021年9月30日

<https://gdtk.lib.gunma-u.ac.jp>

編集—群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会 前橋市荒牧町4-2(群馬大学総合情報メディアセンター内) TEL.027-220-7180



## PHOTO SPOT

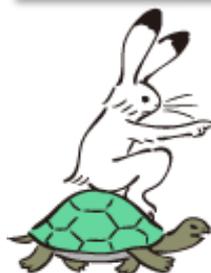
### 共愛学園前橋国際大学図書館



2021年、本学では5号館となる新校舎が完成いたしました。名称はKYOAI GLOCAL GATEWAY、コンセプトは「人と人、地域とキャンパス、世界と大学を繋ぐ扉となる新校舎」です。

最近では、コミュニケーションを重視する学生達は5号館や4号館(KYOAI COMMONS)に集い、静かに学修したい学生達は研究棟である3号館、図書館がある2号館、外国語センターやチャペルがある1号館に集う、というように学内のゾーン分けが自然と生まれつつあるように思います。

図書館では感染症対策として図書除菌機の導入や座席の間引き、飛沫防止パネルの設置等の策を講じています。利用時間に関しては制限せざるを得ない場合もありますが、なるべく開館して学生が利用できるように、と努めております。



## CONTENTS

■ 新会長就任のご挨拶	2
■ 小特集 読書のバリアフリーをめざして	2
■ トピックス	5
■ 編集後記	5

## 新会長就任のご挨拶

群馬大学総合情報メディアセンター長  
西村 淑子



2021年4月より、群馬県大学図書館協議会会長に就任しました。私は2000年4月に群馬大学社会情報学部採用され、以来、法律学（行政法、環境法）の教育研究に携わってきました。これまで県内外の大学図書館には、相互利用による文献複写や現物貸借などで大変お世話になっております。この機会に、教育研究活

動を支えてくださっている大学図書館教職員の皆様に心よりお礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるうなか、大学図書館もさまざまな対応を求められています。また、オープンサイエンスの推進においても大学図書館の貢献が期待されているところです。群馬県大学図書館協議会加盟館の皆様におかれましても、日々生起する新たな課題に取り組まれていることと拝察致します。本協議会の各種事業が、加盟館の皆様にとって有意義なものとなり、大学図書館相互協力の進展に資するものとなるよう取り組んでまいりたいと存じます。



加盟館の皆様には、一層のご支援とご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

ところで、本協議会の会報「からっ風通信」は、毎号とても読みやすかつ時宜に適した興味深い内容となっており、私の挨拶文も「あまり堅苦しいものにならないように、趣味などについても書くように」との依頼がありました。そこで、私の趣味について書きますと、3年ほど前から近所のピアノ教室に通っています。上達はいまひとつですが、ボケ防止には効果があると信じています。いま楽しみにしていることは、ポーランドのワルシャワで開催されている第18回ショパン国際ピアノコンクールです。7月に予備予選が終了し、10月の本大会の出場者87名が決定しました。日本からは14名のピアニストが本大会に挑みます。予備予選からファイナルまで、YouTubeで全世界にライブ配信され、アーカイブもされます。コロナ禍で会食も旅行もできませんから、その分、自宅でショパンの世界に浸って過ごしたいと思います。

最後になりますが、加盟館の皆様から大学図書館に関するご意見や経験談、または趣味のお話などもお聞かせ頂ければ幸いです。コロナ禍の一日も早い終息を願うとともに、加盟館の皆様と直接お会いできる日を心待ちにしております。

## 小特集 読書のバリアフリーをめざして ①

### ●NPO法人 時をつむぐ会（特別寄稿）

## 見える人も見えない人も一緒に楽しめる絵本 「てんじつきさわるえほん」を知ってほしい —シリーズまとめて貸し出しをしています—



きっかけは『母の友』\*の特集「すべての子どもに読書のよろこびを」に綴られた全盲の岩田美津子さんの体験談でした。絵本を読んでいた息子が全盲の彼女の手をとり、「これは？」とページを触らせてきたとき、絵本は読んで欲しいものなのだと知るのでした。見えない母親と見える息子が一緒に、絵本をまるごと楽しみたいという希望がひしひしと伝わってきました。

(\*2014年3月号・福音館書店)

岩田さんの凄いところはここからです。市販の絵本に点字と絵をかたどった透明シートを貼った「てんやく絵本」を考案、「点訳絵本の会岩田文庫」を自宅に開設(1984年)。現在は、仲間・ボランティアが手作りの蔵書は1万2千冊を超え、「てんやく絵本ふれあい文庫」(1991年改称)から全国に無料で貸し出しを行っています。

さらに、熱意に触れた出版社の心ある人たちが「点

字つき絵本の出版と普及を考える会」を発足し、様々な「てんじつきさわるえほん」が生まれています。

『しろくまちゃんのほっとけーき』（こぐま社）、『ノントン じどうしゃ ぶっぶー』（偕成社）、『ぐりとぐら』（福音館書店）、『あらしのよるに』（講談社）、文字のない『さわるめいろ』（小学館）は海外でも。

特徴は、絵本の美しい色はそのまま、その上に樹脂インクで盛り上げ印刷をし、点字だけでなく絵も触って楽しむことができます。出版社の枠をこえ、使う人の声を聴き、情報交換をした結果、製本コストを抑え、劣化しにくい樹脂の凹凸、手作りではない書店で購入できる本として見える人も見えない人も楽しめる本が出来ました！

しかし、「てんじつきさわるえほん」は、まだまだ知られていません。

時をつむぐ会では、シリーズ17冊と参考資料を無料で貸し出しています。群馬県立図書館のご協力により

市町村支援協力車で県内施設に運んでいただいています。今、必要としている方々には勿論、「てんじつきさわるえほん」を触媒に、触る楽しさ・読書環境・障がい・教育・社会などを考える機会に、ぜひ、ご活用ください。

(NPO法人 時をつむぐ会 近藤理江)

<b>貸出内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本を展示するラック (幅50cm×高さ160cm. 木製. 折りたたみ式)</li> <li>・てんじつきさわるえほんシリーズ 17冊</li> <li>・参考資料6点、パネル4点、その他絵本5冊</li> </ul>
<b>貸出期間</b>	2週間(要相談)
<b>申 込</b>	HP掲載の申込書をFAX
<b>貸出方法</b>	群馬県立図書館 市町村支援協力車 または「本の家」での受け渡し(高崎市)
<b>お問合せ・詳細</b>	NPO法人 時をつむぐ会 <a href="https://takasakiehonfes.org/tokitsumu.html">https://takasakiehonfes.org/tokitsumu.html</a>

## 小特集 読書のバリアフリーをめざして ②

### ●育英大学・育英短期大学図書館

# 「てんじつきさわるえほん」貸出サービスを 活用した展示を行いました

NPO法人「時をつむぐ会」が実施している「てんじつきさわるえほん」の貸出サービスを利用して、5月末の「絵本学」講義用に借用されていた点字絵本のセットを、残り期間の1週間（5月31日（月）～6月4日（金））、大学図書館内で展示させていただきました。

感染予防のため、利用者には、絵本に触るときは手指消毒してから触れてもらうようお願いしたうえで、展示を行いました。

幼稚園実習の直前で利用者が多い時期だったこともあり、多くの学生が点字絵本を手にとって、凹凸で表現された絵や点字の感触を確かめていました。展示期間中は、木製の専用ラックの存在感が目を引き、通りすがりに絵本を眺めていく学生も多く、興味の薄かった学生達にもバリアフリー絵本の存在を知ってもらう良い機会になりました。

このサービスを利用した大学図書館での展示は、今回が初めてとのことでしたが、点字絵本に施された

様々な工夫は、大学生にも多くの気づきをもたらしてくれるはずです。今回は短期間の展示でしたが、もっと多くの学生に見てもらいたいので、今後もぜひ「てんじつきさわるえほん」貸出サービスを利用させていただきたいと考えています。



点字絵本の展示（正面）



点字絵本の展示（裏面）

## 小特集 読書のバリアフリーをめざして ③

### ●群馬県立点字図書館 (特別寄稿)

## 目の見えない・見えにくい人のための図書館 群馬県立点字図書館

### 1. こんな仕事をしています

点字図書館は、目の見えない・見えにくい人に、さまざまな情報を提供するための施設です。法律的には身体障害者福祉法に定められた、視覚障害者情報提供施設であり、全国に約100の施設があります。県内には当館と桐生の2館があり、県内の視覚に障がいがある方へ、情報提供を行っています。

現在の当館の主な業務は以下の3つです。

#### ①利用者サービス

視覚に障がいがある方は、通常の図書資料へのアクセスが難しいことから、当館では、耳で聴く音声の本と、指で触って読む点字の本を所蔵し、貸し出しています。また、日常生活上必要な情報(書類など)を個人の希望に応じて点訳・音訳するサービスも行っています。

#### ②図書等の製作・収集

音声の本・点字の本は、市販されているものがほとんどないため、点字図書館の業務は、本を作ることから始まります。蔵書となる本の製作には、多くのボランティアが関わっています。

#### ③ボランティア(奉仕員)の養成

1冊の本を点訳・音訳するには、点訳・音訳の各技術と、根気と労力が必要となります。当館で蔵書製作活動を希望する方には、当館実施の養成講座を受講し、基本的技術を身につけていただいています。毎年養成講座を開催し、情報提供が安定して行えるよう、体制を整えています。

### 2. 点字図書と利用者について

目の見えない方が使う文字というと、多くのみなさんが点字をイメージされると思います。しかし、病気や事故で、途中で目に障がいをもった場合は、その直後から、すぐに点字が読めるわけではありません。点字が読めるようになるには、練習が必要で、多くの中途視覚障がい者の方は、情報収集媒体として、音声の本を使っています。

なお、最近は点字を学び始めた方が読み取りやすい(通常の点字よりも点が大きく、点の間も大きい)とされている、L点字というものもできました。情報に浴せる手段はひとつでも多い方が良いと思うので、様々な機会を捉えて紹介しています。

### 3. 今後の展望

当館ではこれまでと同様、音声の本、点字の本の充実を図っていきますが、それと同時に、視覚に障がいのある方々が、日常生活で必要としている情報や、支援機器等の情報提供、操作体験会など、さまざまな情報の発信に力をいれていきたいと思えます。

また、障がいの有無に関わらず、すべての人が読書による文字・活字文化の恩恵を受けられるようにするための法律「読書バリアフリー法」が2019年6月に成立しました。

この法律では、さまざまな障がいのある方が、利用しやすい形式で本の内容にアクセスできるようにすることを目指しています。今後は、学校図書館・公共図書館との連携をさらにすすめていきたいと思えます。

(群馬県立点字図書館 細川智子)



## トピックス

## 群馬医療福祉大学図書館(本館)

## 医療技術学部開設に伴うリニューアルオープン

昨年度、新学部用校舎の新設に伴い、図書館全体のレイアウトを変更するという大規模な改装工事が行われました。県内相互貸借も完全にストップさせていただき学内外の利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けしましたが、なんとか無事に2021年度の医療技術学部開設に合わせてリニューアルオープンすることが出来たことに安堵しております。

## &lt;作業を振り返って…&gt;

カウンターも含め体育館フロアに全てを移動し書架を解体すると、図書館という空間に何も物が置かれていないという、普段なかなか見られない光景が目の前に広がっておりました。長年書架が置かれていた場所には、くっきりと「書架の跡」が残っていたことがとても印象的でした。

一時保管先では、床全面に番地を振ることでパッキング状態でも資料が探し出せるように工夫をしましたが、コロナ禍の影響で一見休館状態ではありましたが、体育館フロア内に電源・ネット環境を仮整備し、可能な限り通常業務ができるように努めました。敢えて完全休館という形をとらず、個々の利用者の求めに応じてサービス提供を続けた点は好評であったようです。しかし移動作業をしながらのサービス提供は不便が多く、やはり図書資料は書架に配架されているからこそ活用しやすいのだと改めて痛感しました。

改装工事後は、図書館全体の形が変わってしまったため書架を戻すときのレイアウトに苦労しましたが、利用者の動線を再検討し、思い切って全体のレイアウトや掲示を見直す良い機会になったと思います。



## 編集後記

今号は、「てんじつきさわるえほん」の貸出サービスを実施するNPO法人 時をつむぐ会と、群馬県立点字図書館から、それぞれの活動をご紹介いただきました。障がいの有無に関わらず絵本や読書を楽しみ、情報を得られるようにと、熱心に取り組まれています。県内大学には医療・福祉系、教育系の学部で学ぶ学生も大勢います。この機会に、少しでもその取り組みを知ってもらえたら嬉しいです。

なお、文部科学省のWebページでは、読書バリアフリー法の周知用リーフレット「誰もが読書ができる社会を目指して～読書のカタチを選べる『読書バリアフリー法』～」PDF版が公開されています。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/ikusei/gakusyushien/mext\\_01304.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_01304.html)

